

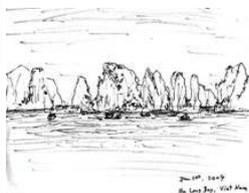
## 7か国学生の研究活動から部活までの黄金時代

### マガジンからみた研究室の1年

7カ国の学徒が相集う研究風景は、圧巻である。その今年度の都市デザイン研究室は、前年度の西村幸夫教授の大著『都市保全計画』の発刊とハノイ研究室旅行などを反映し、熱気のうちに4月15日付で『都市デザイン研マガジン』が創刊された。北澤猛新領域創成科学研究科教授の誕生、女子学生の過半数突破、大野村、鞆の浦、八尾、喜多方などのプロジェクト、都市デザイン研究部から原書講読会までの部活ラッシュ、オギユスタン・ベルク博士の特別講義と本郷まちあるきなどの報道が続いた。この研究室黄金時代のうちの1年を記録した「マガジンからみた研究室の1年」を回顧したい。(コメントは標準：編集長酒井憲一研究生、斜体：編集部員坂内良明M1。写真キャプションの日付はマガジン発行日)



西村教授の大著『都市保全計画』紹介ほか、9本の記事を酒井編集長が独力で執筆した創刊号(4/15)



「ハノイ奇岩」(5/1)



鞆の浦・ほうきや(7/15)



E1号館コンペ銀賞(8/15)



大野村元人がサッカカフェ(10/1)

<4月> 第一回研究室会議、女子学生が研究室の過半数、地味ながら華やぐ。7プロジェクトの発表多彩。

『都市保全計画』、5ヶタ価格でも研究室内で保持者漸増の圧巻。

<5月> 青春を謳歌する会(通称オレンジの会)「お勉強しちやいながら」アピール秀逸。サークルラッシュ。

ハノイスナップ&スケッチに募る旅情、卒業設計散文詩も瑞々し。

<6月> 研究室賢人そろい踏み『都市美』(学芸出版社)刊行。斯界初の総合書。「都市美は都市デザイン研」の評価定着。

調査隊、喜多方へ、栃木へ。回重なる研究室会議。胎動の初夏。

<7月> 北澤新領域教授誕生。北澤威厳と北澤微笑の北澤節単独インタビュー、坂内記者体当たり。鞆、八尾での実測調査報道。留学先のベルギーから。就職先の伊勢から。投稿小誌面に溢れる。

<8月> 大野村に研究室設計監修で誕生の児童館、パン工房の賑い報道。プライド・オブ・わが研究室実感。E1号館広場コンペに銀賞・入賞、「デザイン」研、面目躍如。

<9月> 建築学会研究発表に大挙東大阪遠征。教室を移動しては仲間を声援、打ち上げはお好み焼きおおきに。京浜「メガ」プロジェクト報告。海と工場と緑の地に描く夢。

<10月> レトロのアルバムに先輩愚ぶ特集圧巻。過去の上到现在はある。イタリアWS、ああイタリア最高!と女子留学生。イタリア組帰国後はイタリア語が流行。濃密国際交流めでたや。

<11月> 超派手衣装の遠藤新OB・池田聖子OG挙式、研究室に愛はありますか?の中島直人社説好評。秋入学新入生、バイタリティゆたかな面々多彩で過熟院生室。

<12月> 雨中ベルクまちあるき完歩密着取材。歴史的特別講義は満席。忘年会完全徹夜は記録的、おおわが研究室の団結よ。丹念にことば紡ぐベルク節。流麗オール・パワポ研究室会議。

<1月> 西村・北澤トップ対談と西村単独会見を坂内記者スクープ。「デザイン研はどこへゆく」遠慮ない質疑応答で貴重文献に。喜多方、大野村に降り積もる雪。教授取材は冷や汗敢行。

<2月> プロジェクト記録本『おおの・キャンパス・ビレッジ』最高編集。さすが名人野原助手!修論不夜城研究室ルポは壮絶。十階籠りのM2・七人の侍、仲良く揃って修論発表乗り切る。

<3月> 知の黄金週間と編集部が銘打ち、修論発表会のパーソナル表情取材で激励。一年回顧、光陰矢より速し。

明澄・八尾石垣絵巻に感嘆の声多数。諸プロジェクト大団円。



イタリアWS(10/15)



遠藤元助手結婚式(11/15)



喜多方・学び会(12/1)



八尾・フォーラム(12/1)



ベルク・ツアー(12/15)



両教授新春対談(1/1)

# 研究室活動を「表現することは救い」の哲学

## 沸騰する活動情報を世界への一念

酒井憲一編集長、マガジン創刊の1年をふりかえる



■マガジン編集会議後に9階にて

「表現することは物を救うことであり、物を救うことによって自己を救うことである」という三木清のことばが、都市デザイン研マガジンを立ち上げたときの思いでした。1年間聴講生として西村教授の「都市保全計画」の受講とともに同研究室に所属して、これほど活力のある研究室の情報公開紙誌がないことを惜しみ、2年目に研究生になると同時に西村教授に提案し、『都市デザイン研マガジン』という名タイトルを示されて創刊しました。無理のない2ページで始め、室員へのプリント配付、OBOGへの添付配信と研究室ホームページへの掲載を立体的に運動させました。

中島助手が坂内良明修士課程1年をギンギラの名称でなく、ちょっぴり古風な「新聞係り」として起用、私はスタッフ、編集部員、記者などと呼び分けました。3人による定例編集会議を欠かさず、1日と15日の月2回発行無休刊を維持してきました。最高のデザイン技術集団にあって、パソコン未熟とソフト不足のまま竹槍で挑み、中島助手の情報さばきと急上昇の坂内編集力で乗り切りました。

私がマガジンを立ち上げるには、後期高齢ながら元朝日新聞記者としての編集体験を踏まえ、西村講義の学部4年対象の「都市保全計画」と大学院の「都市設計特論1」、北澤教授の学部3年対象の「都市デザイン概論」の皆出席受講、ハノイ研究室旅行、大野村プロジェクトやベルクまちあるき班参加など、全方向体験をしていたことが役立ちました。「都市保全計画」の講義は2年連続受講しましたが、感動の余り1年目のうちに『西村幸夫「都市保全計画」&東大研究室ホームページ熟年聴講生日誌』という本を出しました。

都市デザイン研マガジンは、新学年から研究室の公式メディアとなり、編集長が坂内院生にバトンタッチされます。文献渉猟に血眼なのが研究室であり研究者の常ですが、われらが研究室活動についての文献を未来のために残すこととなります。望みたいことは、沸騰する研究室情報をマイナー扱いしないで、世界からアクセスされていることを意識し、客観的マガジンとしての路線を維持してほしいということです。

正統アメニティと都市計画を勉強した工学部研究生修了後の4月から、農学部研究生として信田聡助教授の「生物材料物理学研究室」に移ります。駒場の教養学部で続いている農学主題講義「生活とアメニティの科学」に皆出席し信田研につながりました。今後は都市デザイン研OBとしてマガジンを愛読します。最後に教官・職員・学生・OBOGの協力に感謝し、西村・北澤研と都市デザイン研マガジンの発展を祈ります。

### ●新刊紹介●『古代武蔵の国府・国分寺を掘る』(府中市教育委員会・国分寺市教育委員会編)

収録シンポジウム中で、当研究室OBの市原富士夫氏(1995年修了・現在、文化庁文化財部記念物課・文部科学技官)がパネラーとして発言している。埋蔵文化財の分野でも、まちづくりへの関心が高まっている、とのこと。当研究室OBの活躍の幅は、広い。



■起用マックを前に笑顔を撮る「母」の笑み

**<風景フォーラムで仕事中の永井ふみOGに遭遇>** 社会人として活動している先輩の現場に遭遇することは、格別に感慨を新たにします。研究室のSが昨年修士課程を修了した永井(旧姓藤本)ふみさんの仕事中に遭遇した。世田谷区から研究室に送られてくる『風景づくり通信』のフロント記事に引かれ、2月18日(土)に玉電砧線の廃線跡をウッチング後、同じ誌面の案内に誘われて世田谷区宮坂区民センターで開催の世田谷線とまちの風景をテーマにした「風景フォーラム」に参加したところ、永井さんがコンサルとして手伝っていた(写真)のでびっくり。同誌は勤め先の(株)石塚計画デザイン事務所制作で、砧線跡の記事は私が書きましたということで二度びっくり。6月にはママになると聞き三度びっくり、「おめでとう」を連発したSだった。

**編集後記** よく分からないうちに「新聞係り」になっていた、というのが実はことの真相、マガジンとの関わりの端緒。創刊後数号のうちは、新聞「配達」係りを務めるのが精一杯だった、というのも恥ずかしながら事実。幾度となく締め切りをふみこえ、そのたびに、迅速無比・即決行動・的確適語・熱血一途の酒井流に助けられた。来年度は、酒井さんから学んだ事々と、皆さんの「読んでるよ」の言葉を糧に、マガジンの灯を守る所存です。(坂内)